

## 武部勤のアジアの未来図



武部 勤氏 略歴

前衆議院議員(8期)。農林水産大臣(第33代)、自由民主党幹事長(第39代)、衆議院議院運営委員長(第63代)を歴任。

議員時代にベトナム友好議連会長、インドネシア友好議連会長、メコン友好議連会長、モンゴル友好促進議連会長、パーレーン友好議連会長を務めたほか、今年3月1日には社団法人日本ベトナム経済フォーラムの名誉会長に就任するなどアジアを中心とする諸国との友好に尽力。このほど一般財団法人「東亜総研」を設立し代表理事に就任。

## 安倍・ズン両首相会談で 日越大学スタートラインに！

アジア・マーケットレビュー読者の皆様、明けましておめでとうございます。昨年は一般財団法人「東亜総研」を設立し、11月には設立記念フォーラム、12月にはパーレーン大使ハリール・ビン・イブラヒーム・ハッサン閣下ご夫妻をお招きし第1回月例セミナーを開催することができた。今年1月はベトナムのドアン・スアン・フン大使閣下、2月にはインドネシアの ユスロン・イザ・マヘンドラ大使を招いての月例会を予定している。

そして「日越大学構想」についても、昨年12月15日に行われた安倍晋三首相とベトナムのグエン・タン・ズン首相による会談において議題にあがり、本格的なスタートを切ることができた。今回はこの会談とその影で尽力した日越友好議連の活動を紹介したい。

### 議題となった「日越大学構想」 ズン首相のスピーチでも大きな扱い

安倍首相とズン首相の会談は、両国の「日越友好年」(外交関係樹立40周年)の締めくくりにふさわしいものとなった。

会談冒頭、ズン首相から安倍首相が就任後初の訪問先としてベトナムを選ばれたことに対する礼が述べられるなど、両国の良好な関係を象徴するように和やかなムードで進んだ。

いくつかの重要な議題について話し合われたわけだが、「日越大学構想」についても取り上げられた。

日越大学に関する両首脳のやりとりは以下の通りである。

**安倍総理** 「日越大学構想については、両国関係者の間で実現に向けて進展している。本件はベトナムの人材育成に資する案件であり、日本政府としても協力していきたい」

**ズン首相** 「日越大学構想を大変強く支持している。構想の早期実現に向け、両国政府で協力していきたい」

さらに直後に行われた共同記者会見においても以下のコメントが両首相から出された。

**安倍総理** 「ベトナムの持続的成長、そして我が国企業のさらなる展開にとって、人材育成は今後益々重要と

なる。そうしたなか、日越大学構想をはじめ、官民双方の努力により様々な協力が行われていることは喜ばしいことだ」

**ズン首相** 「安倍総理に対し、関係者間で推進されている教育分野に関する越日大学構想を歓迎し、同構想が成功するよう協力していく用意がある旨言及した」

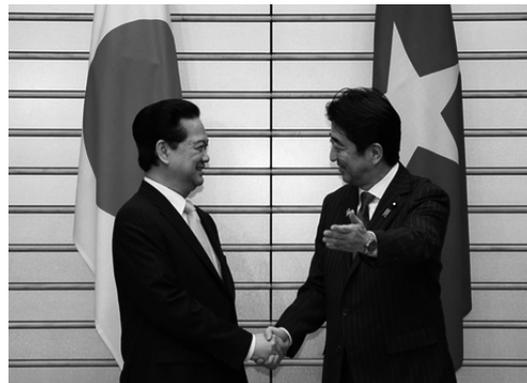
ズン首相は、日越議連主催の昼食会に先立つスピーチにおいても、日越大学の話題に大きな時間を割いてくれた。同席していた私の顔を時折見てくださっていたように思うのは勘違いではあるまい。

### 日越関係はより重要に 伝えないマスコミに落胆

会議で議題となったのは①海上安全保障②人材育成への協力(日越大学構想)③経済関係・開発協力④安全保障、の4つ。

①についてはベトナム海上警察に対して巡視船艇などの供与について話し合われた。

③については安倍首相からインフラ整備に向け5件総額1,000億円の円借入を新たに供与する決定をしたことを伝達。会談終了後は円借入3事業(ダ



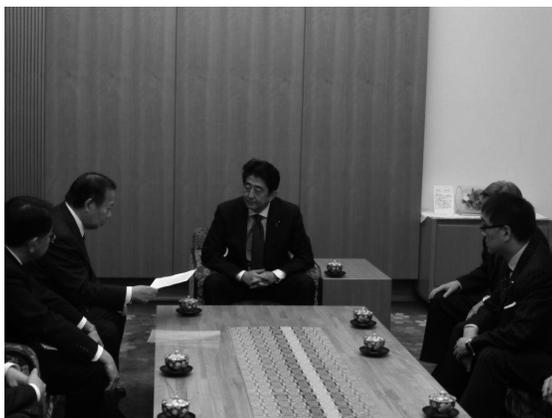
安倍首相とグエン・タン・ズン首相は「日越大学構想」を前進することで合意  
(写真提供：内閣府)

ニム水力発電所増設およびハノイ市環状3号線整備、ノイバイ国際空港第2旅客ターミナルビル建設)について署名式が行われた。

④については、安倍首相から昨年11月の第1回日越治安当局次官級協議の開催について歓迎の意が伝えられた。

どれを取っても重要な議題であり、日本にとって今後の外交課題の要(かなめ)となるものであった。

ところがである。マスコミ各社の報道を見ると、取り上げられたのはインフラ整備と巡視船供与の話のみ。もちろんこの2つも重要であるが、日越大学について報じた報道機関(私が確



安倍首相に「日越大学設立に関する決議文」を説明する二階会長

認した範囲では)がゼロであったことに落胆を禁じ得なかった。

この事業はこれからの両国にとって、いやアジアの新しい関係を構築するための発信基地、中核をなす施設となるものだ。両国の多くの政治家が高い理想を掲げて協力し、このたび両首相が大きく取り上げたのもそのためである。

国民に対して新しい外交姿勢を示し夢を与えるものであるのに、と残念でない。

## 日越友好議連が尽力 日越大学設立で決議

ここで今回の首脳会談に向けて尽力された日越友好議員連盟の取り組みを紹介したい。

少し時を遡る。

日越友好議連の二階俊博会長と越日友好議連のトー・フィ・ルア会長との間で「日越大学構想」を日越首脳会談の議題にすべくお互い努力することは申し合わされていた。9月14日、私がハノイを訪れた際もルア会長の仲介で土曜日にも関わらず、ズン首相と会談することができた。その際「12月の議題に必ずする」と力強い返事を頂くことができた。

さてベトナム側がズン首相の強いリーダーシップで機運が一気に高まって来たのに対して、心配されたのは日本側の対応であった。

そこで12月、自民党本部に自民党所属の日越友好議連幹部が集まり、総理大臣に要請するには具体的にどうい

う要請項目にまとめるかという議論で会議が持たれた。

その席には文部科学省、外務省、経済産業省、国土交通省の幹部職員も集められた。

ここからが二階流である。二階会長は彼らに対し「ベトナムでは日越大学に対して大きな期待が集まっている。日本側としても責任がある案文を作らなければならない。

そして責任ある案文は、我々与党だけでなく、表裏一体にある政府が共同で作成しなければならない。与党として君たちを信頼する。我々の意を踏まえて決議の案文を作ってみよ」と指示をされたのだ。

こうしたものは夢が詰まっていなければならないが、理想論だけの空理空論では意味がない。かと言って、夢がなければ魂は宿らない。

最近では外部有識者に意見を聞くことも増えたが、与党と政府が一体となつてこそ、責任あるものを作ることができるのだ。官庁側も責任を持って取り組んでくれたおかげで、議題となることにつながったと思う。

日越友好議連は12月10日、次の4点で決議文を採択した。私の簡単な解説も述べておく。

①政府はズン首相との首脳会談で日越大学構想について、積極的な協力を確認すること。

②政府はJICA(国際協力機構)における基礎情報収集調査の結果を踏まえ、円借款供与へ向けた準備に着手すること。

(金額はF Sが終わらなければわからないが、200億円という数字がベトナム政府側からは出されている。)

③政府は、大学組織や教育内容、教員や研究者、優秀な学生の確保、必要な資機材について支援スキームを構築し、産官学が一体となって実行できる体制整備を踏まえること。

日本企業のニーズを踏まえ、我が国の高等専門学校を参考に、実務的・実践的な人材を育成するプログラムを構築すること。

(日本企業には基金の創設、卒業生の雇用、人材面などでの協力を期待している。)

④政府は大学設置が想定されるホア

ラックでのエコシティ開発について、交通手段の実現可能性などを勘案し、中長期的な開発の可能性を積極的に検討すること。

(これは国土交通省に期待している。産官学が協力しやすい環境を整えることは必須条件であろう。)

二階会長ら議連幹部は、この決議文を持って同11日から12日にかけて、安倍首相、茂木経産大臣、下村文科大臣、岸田外務大臣、太田国交大臣らを訪問したわけである。

なお決議文のとりまとめや関係大臣との会談に、武部新という日越友好議連事務局次長も尽力したことを書いておきたい。

## 号砲は鳴った さてこれからだ!

決議文には書かれなかったが、二階会長から「防災研究所」を大学内に設置してはどうか、という案も出ている。昨年、ベトナムをはじめアジア各地で様々な自然災害が発生したことは記憶に新しい。こうした問題を科学、経済、政治のあらゆる面から対策を練る機関が確かに必要だろう。

環境も大きな問題だ。PM2.5に代表されるように環境問題は深刻化しつつあり、アジアの成長を阻害する要因となるかもしれない。アジアが抱える難問に挑戦する総合的な研究所を設立することは重要であろう。

日越大学の設立は仕組みより先に、並列的に実質的な組織を立ち上げ、それを横につなげるという形も考慮に入りたいと考えている。

スケジュールとしては3年以内の大学院大学のハノイ大学内への設置、早い段階での高専学校、各種研究所の設立を進め、それをひとつにまとめて「日越大学」として結晶させる。

首脳会談が終わり「良かった、これまで苦労した甲斐があった」とホッとしているのが正直なところである。

が、計画はまだスタートラインに立ったところ。「よーいドン!」の号砲が安倍、ズン両首相によって鳴らされたに過ぎない。

これからスピード感を持って設立に向けた具体的な動きを進めていく必要がある。